

RKU Today

流通経済大学広報誌

AUTUMN 2013

【特集】

RKU Wi-Fi (学内無線 LAN ネットワーク) を 活用しよう



流通経済大学

vol.25

04 【特集】

文：荒井宏和(スポーツ健康科学部准教授)

RKU Wi-Fi(学内無線LANネットワーク)を 活用しよう

10 【学長室だより】

小池田富男(流通経済大学長)

創立50周年を新たな飛躍に

【連載】

12 ウェストバージニア大学留学記 第3回

山岸直基(社会学部准教授)

研究活動も郷に入りては郷に従え

14 Close Up!

流通経済大学

[教職員紹介]

16 【馬場啓一のRKUウォッチング】

文：馬場啓一(法学部教授)

「三十数年、金融関係一筋でした」

溝田泰夫 法学部教授

18 【OB/OG訪問】立川が聞く。

取材：立川和美(社会学部准教授)

森 昭彦さん(1981年3月卒業・日本プラスト株式会社執行役員)

20 【留学生紹介】

取材：沖野雅広(企画広報室)

李 婷婷さん(台湾出身)

「縁が続いて、現在の私がいます」

21

流通経済大学校友会・教職員野球部からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS

総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝／2013年度 第1回読書コメント大賞
海浜実習／学内合同企業説明会



龍ヶ崎市上町の八坂神社祇園祭最終日に行われる「撞舞」

古い日本の文化に目を向けてもらいたい。
龍ヶ崎には「撞舞」という
貴重な有形文化財があるし、
松戸には徳川家ゆかりの戸定邸がある。
他にも、様々な有形無形の文化財に、
本学は囲まれている。
取手には
「一本刀土表入り」の顕彰碑があり、
遠いが笠間には、
かの座頭市の記念碑もある。
古きを知り、新しいものに触れる。
これも立派な学問である。
郷土の誇りとは、
決して生まれた土地のことばかりを
言うのではなく、
多少なりとも縁のあった土地に
ゆかりのものに対する、
愛情と慈しみをも指すのだ。
そしてそれらを次の世代に継承していく。
これが文化なのである。



[特集]

RKU Wi-Fi

(学内無線LANネットワーク)

を活用しよう

本学の学内無線LANネットワーク「RKU Wi-Fi」が9月にスタートしました。
 今回の特集では、主に教育機関におけるIT活用の課題と、
 本学の学内ネットワーク環境について紹介します。

文:荒井宏和(スポーツ健康科学部准教授)

はじめに

先日の海外出張の際に、航空機の機内で映画を鑑賞する機会があった。「ソーシャル・ネットワーク」(原題:「The Social Network」)と2010年に制作された映画で、Facebook(フェイスブック)を立ち上げたマーク・ザッカーバーグのストーリーである。今、こういったSNSを活用して情報交換を行う機会が多くなり、PCやスマートフォン等の端末が手放せないという人も多いという。インターネット環境の充実是我々の日常生活を変え、携帯端末などのツールを介して様々な場所でネット接続ができるようになった。

今から三十数年以上前の話だが、私は小学五年生の時にアマチュア無線技師の免許を取得したことから、機械を扱うのが好きになった。このまま、こういった関係の道に進むのかなと思っただけで、なぜかスポーツの世界へと足を踏み入れてしまったが、大学ではカシオの「書院」やNE

Cの「98シリーズ」でロータス1-2-3などに触れる機会があり、大学院の研究室ではアップル社の「SE/30」や「Classic」というPCを扱った。初めて自分で購入したPCは「Color Classic」であるが、簡単な改造を試みながら処理速度の向上を図り修士論文を作成したものである(論文の内容に関する議論は別として)。

その当時には、インターネットは既に存在し、国内外の雑誌を見るとその活用方法は無限にあることを予感させていた。そして今ではその環境は急速に発展し、幅広い世代の人たちが簡単にインターネットを介して情報を取得したり発信できるようになった。

この背景には、携帯端末とネット環境の発展が大きく貢献したと思われる。最初は電話線を介して接続する方法から始まり、光ケーブルや無線接続へと移行し、大容量の情報データ

を扱えるようになった。この携帯端末からネット接続できる場所は、オフィスや家庭以外に空港やホテル、コンビニなど徐々に増え続け、無料で接続できる場所も多い(ただし、無料接続はセキュリティに注意)。私の経験上、海外出張のときは必ずネット接続ができる場所を探す。数年前までは時間による課金制であったが、モバイルルータなども充実し、移動しながらデータ通信が可能となり、航空機の中でもインターネットに接続できるようになってきている。

このような時代の中、いよいよ本学でも学内の無線LAN環境が充実し、様々な活用方法が期待される。しかし、これを扱うにあたってモラルやルールの遵守も必要となる。

今回は、この機会をとおして学生のキャンパスライフに活用してもらいたいということで、学内ネット環境について簡単に触れたい。

若年層のIT活用の実態

政府が今年示した成長戦略の素案には、「世界最高水準のIT社会の実現」に向け、オープンデータやIT教育推進に向けた改革案が盛り込まれている。具体的には、ハイレベルなIT人材の育成・確保のため、デジタル教材の開発や、双方向型の教育、グローバルな遠隔教育などの授業革新を推進している。産学官連携でIT人材育成の仕組みを来年度中に構築し、義務教育段階からのプログラミング教育など、IT教育を推進するとしている。また、政府の高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部から出された「世界最先端IT国家創造宣言」第二次安倍内閣の新たなIT戦略」では、計画段階から実行に速やかに移すと宣言した。

以下は、その資料から関連項目を一部抜粋したものである。

①教育環境自体のIT化

学校の高速ブロードバンド接続、一人一台の情報端末配備、電子黒板、無線LAN環境整備、デジタル教科書・教材の活用等、初等



に、IT産業全体の魅力向上を図ることも必要である。

内閣府による平成二三年度青少年のインターネット利用環境実態調査によると、一〇歳～一七歳までの世代を対象とした調査を実施した結果、携帯電話を所有（家族と共用も含む）している青少年は、小学生で二〇・三％、中学生が四七・八％、高校生では九五・六％となっている。またメールやサイトの閲覧など、携帯電話でインターネットを利用している者は、小学生が七五・二％、中学生が九五・七％、高校生が

教育段階から教育環境自体のIT化を進め、児童生徒等の学力の向上とITリテラシー^{※1}の向上を図る。併せて、教える側の教師が、児童生徒の発達段階に応じたIT教育が実施できるよう、IT活用指導モデルの構築やIT活用指導力の向上を図る。そのため、指導案や教材など教師が活用可能なデータベースを構築し、府省の既存の子ども向けページも教材等として整理し、積極的に活用する。また、企業や民間団体などにも協力を呼びかけ、教育用のデジタル教材の充実を図る。これらの取り組みにより、二〇一〇年代中には、すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で教育環境のIT化を実現するとともに、学校と家庭がシームレス^{※2}でつながる教育・学習環境を構築する。

②国民全体のITリテラシーの向上

インターネットの普及に加えスマートフォン等の急速な拡大により、国民全体がITに触れる機会が増大していることを踏まえ、I

九九・四％と、中学生以上のほとんどが利用していることになる。これらの実態調査の結果をまとめると、現在の小学生から高校生は、
①携帯電話を所有する青少年が増加している。
②青少年による携帯電話を通じたインターネット利用が常態化。

③青少年による携帯電話を通じたインターネット利用が長時間化。
④青少年によるパソコンを通じたインターネット利用の常態化。

が言えるとしてまとめられている。つまりこの数字は、対象となった生徒たちが、今後大学に入学した際にインターネット環境やPCの扱いにもなれていることが予想されるということである。よって、大学にはこういった世の中の流れに耐えうるハード面の環境整備が求められているのではないかとと思われる。実際に高等学校の現場ではスマートフォンなどの端末以外

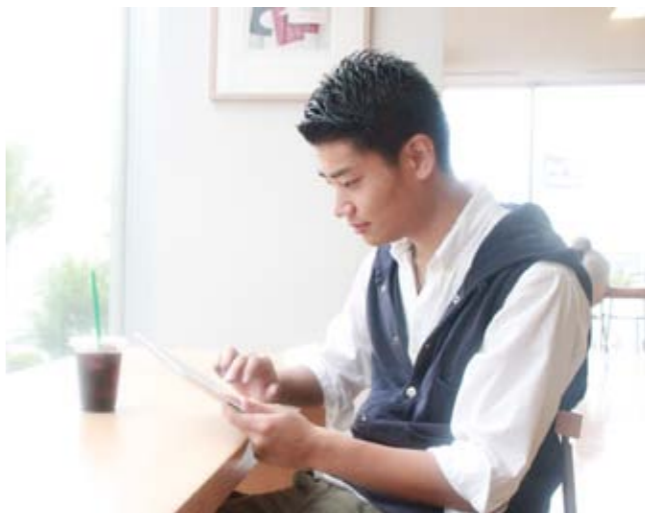
ITの活用により、子どもから高齢者まで、そのメリットを享受して豊かに生活を送ることができるよう、情報モラルや情報セキュリティに関する知識を含め、国民全体のITリテラシーの向上を図る。このため、子どもから学生、社会人、高齢者に至るまで、そのリテラシーの現状も把握しつつ、年代層別に、ITに関する知識を身につけるための取り組みを推進する。また、遠隔教育等ITの利活用により、地理的・時間的制約を受けるとなく、離島を含め全国津々浦々ですべての国民が、自由に学べる環境を整備する。

③国際的にも通用・リードする実践的な高度なIT人材の育成

イノベーション^{※3}の鍵を握るのは人材であり、社会的課題の本質を掘り下げてITの利活用による解決策をデザインできる、ITの利活用をけん引する高度なIT人材の育成が必要である。また、このような高度なIT人材を育成するためには、実践の中で技術を習得させることが重要である。このため、初等・中等教育段階

に、タブレット型端末を活用した授業が展開され、これを標準教材として位置づけ生徒全員が所有する事例もある。総務省における「フューチャースクール推進事業」と文部科学省の「学びのイノベーション事業」とが連携して特別支援学校を含め全国の二〇校の中学校を対象に実証研究を推進してきた。

文部科学省における情報通信技術の必要性に関する見解は、まず情報通信技術を活用することが極めて一般的な社会にあって、学校教育の場において、社会で最低限必要な情報活用能力を身に付けさせて社会に送り出すことは学校教育の責務であること。教科指導における情報通信技術の活用は、教員が任意箇所



な実践教育ネットワークの推進やインターネット等を含め、実践的な専門教育プログラム等を構築する。併せて、企業においても、期待されるスキルの確保とそれに見合った魅力的なキャリアパス^{※4}による実践的な人材育成モデルの構築が必要である。なお、IT人材のスキルを共通尺度で明確化するスキル標準を、ITの技術変化等を踏まえて適切に整備・活用することも重要である。

からプログラミング等のIT教育を推進するとともに、高等教育段階では、産業界と教育現場との連携を強化して、継続性をもつてIT人材を育成していく環境の整備と提供に取り組むとともに、分野・地域を越えた全国的

また、起業意識を醸成するイベントやプロジェクト等を通じて、IT・データを活用した起業や新サービスの創出を担う先端人材の発掘・支援を進める。さらに、産業界と連携し、ユーザー・ベンダ間をはじめ、様々な産業間での人材の流動化や職種転換を容易にする環境整備を進めるとも

大、動画、音声朗読等を通して、学習内容を分かりやすく説明したり、子どもたちの学習への興味関心を高めたりすることに資するもの。学校教育における重要なツールである教科書・教材や情報端末等について二世紀を生きる子どもたちに求められる力の育成に対応した整備を図っていくことが必要。子どもたち一人一台の情報端末、デジタル機器、高速無線LAN環境、またこれらの活用を支える高速ネットワーク環境等の整備は、情報通信技術を活用した教育を実現するための前提。「新成長戦略」及び「新たな情報通信技術戦略」を踏まえ、子どもたち一人一台の情報端末による二世紀にふさわしい学びと学校を創造するという方向性に沿って、教育の情報化を実効的に推進することが重要であり

総務省の「フューチャースクール推進事業」との連携により、モデル地域・学校などで総合的な実証研究を行う必要があるとしている（文部科学省「教育の情報化ビジョン」）。

本誌『RKU today』前号でとりあげた教員特集を考えると、教員を目指す学生も将来的に通信情報技術を修得しておかなければならない状況が訪れることは必至で、PCやタブレット端末を活用した教材作りや授業を展開できる能力が求められるかもしれないことは視野に入れておく必要があるだろう。

一方、海外に目を向けると、子どもたちの教育にとっても熱心なシンガポールでは、国家予算の二〇％を教育に充てている。その中で特徴的なものは、PCやスマートフォンなどの情報端末を活用した授業が行われており、政府が推奨する教育プロジェクト「未来の学校」計画が実施されていることだ。これは、二世紀の情報化社会を牽引する人材を育成することがねらいである。また、南米のウルグアイでは、二〇〇九年までに子どもたちに一人一台のPCが配布されたということである。我が国の場合は政府が二〇二〇年までに一人一台のPCを持つ環境を作ることを目標にしているが、諸外国とのIT教育環境を比較すると遥かに先をリードされてしまっているという見方が強い。

※1 ITリテラシー/ITを使いこなす能力のことを意味する。つまり、インターネットなどをうまく利用する力のこと。 ※2 シームレス/それぞれを区切ることなく一貫して操作することができる状態。
※3 イノベーション/革新、または新機軸を打ち出すこと。 ※4 キャリアパス/自分の仕事において、過去の職歴から現在の職務を通して今後の希望や予想による職歴まで一貫して俯瞰するためのキャリアプラン。

本学ネット環境の整備へ



ラフバラ大学 (UK) の大学院生とインターネット回線を用いた双方向授業の様子 (スポーツ健康科学部荒井ゼミ 2007年)

本学の場合、授業や学内行事、その他お知らせに関する様々な情報は、大別すると学内掲示板で情報を得るか、大学のウェブサイトで情報を得るという二通りの方法がある。また教員によっては、PCやタブレット端末を使った授業が展開されていたり、学生のプレゼンテーションツールとして活用されている。ただし、学内で自らが持参した端末を利用する学生の数は決して多いとは言えず、大学が設置したPCを限られた空間と時間の中で活用している学生が多いということになる。しかし、もしこの制限が開放されたらならば、自由な場所で端末を使った活動が可能になり、授業への様々な参加形態が考えられ、学生の興味関心が増す可能性も期待される。

従来の学内無線LANは、ソフトバンクテレコム社のサービスであるBBモバイルポイントのみが設置され、自らが契約または学内で登録した者が接続して使用できた。しかし外部の業者に頼るのではなく、大学として自前のシステムを構築しようと、本学におけるキャンパスネットワークに関するあり方について、昨年度教職員で構成されたプロジェクトチームを結成し検討が重ねられた。現状を率直に述べると、必ずしも他大学のようなネット環境が十分に構築されているわけではないということを確認した。また、先の東日本大震災のように通信環境の制限が発生し、本学の学生や教職員の外部との通信や情報収集に不利益が生じることが懸念される。そこで、学生教職員にとつてより使いやすく、また五年、一〇年先の時代を見据え、学内外の多様なニーズに柔軟に対応できる情報ネットワークの構築を行うことを目的とし、新キャンパスネットワーク構想が提案された。具体的には、将来のクラウド化にも対応できる快適な高速大容量通信を可能とした新しいネットワークを構築する。どちらのキャンパスで発生したトラブルにも対応できるネットワークを構築し、災害時などは近隣住民にも開放し周辺地域に貢献できるようにする。従来の通信機器を更新し、

通信不能となる事態を回避するとともにネットワーク認証の仕組みを導入し、高セキュリティを確保するなどである。Wi-Fi環境での通信が日常化していることから簡単且つ快適な無線通信環境を提供し、授業や学習、研究に活用するというのである。

RKU Wi-Fiを活用しよう

まず用意しなければならない端末は、無線LAN内蔵パソコン、無線LANカード+無線LAN対応パソコン、Wi-Fiに対応したスマートフォンまたはタブレットPCなどである。本学の学生および教職員が接続するための最初のステップはWi-FiをONにしてSSID:「RKU_JOIN」にて端末の登録を行うこと。これによって誰の端末がネットワークを利用しているかというのが設定されるのである。登録を行えば、一定期間

その情報はシステムに保持される。登録が完了している端末であれば次にSSID「RKU_Wi-Fi」に接続することでインターネットが利用できる。

学内で接続ができる場所は、龍ヶ崎キャンパスはおおむね二号館、三号館、六号館、七号館を除いたエリアであり約二〇〇箇所のアクセスポイントがある。新松戸キャンパスは約二〇箇所のアクセスポイントがありほぼ全域で接続することが可能。



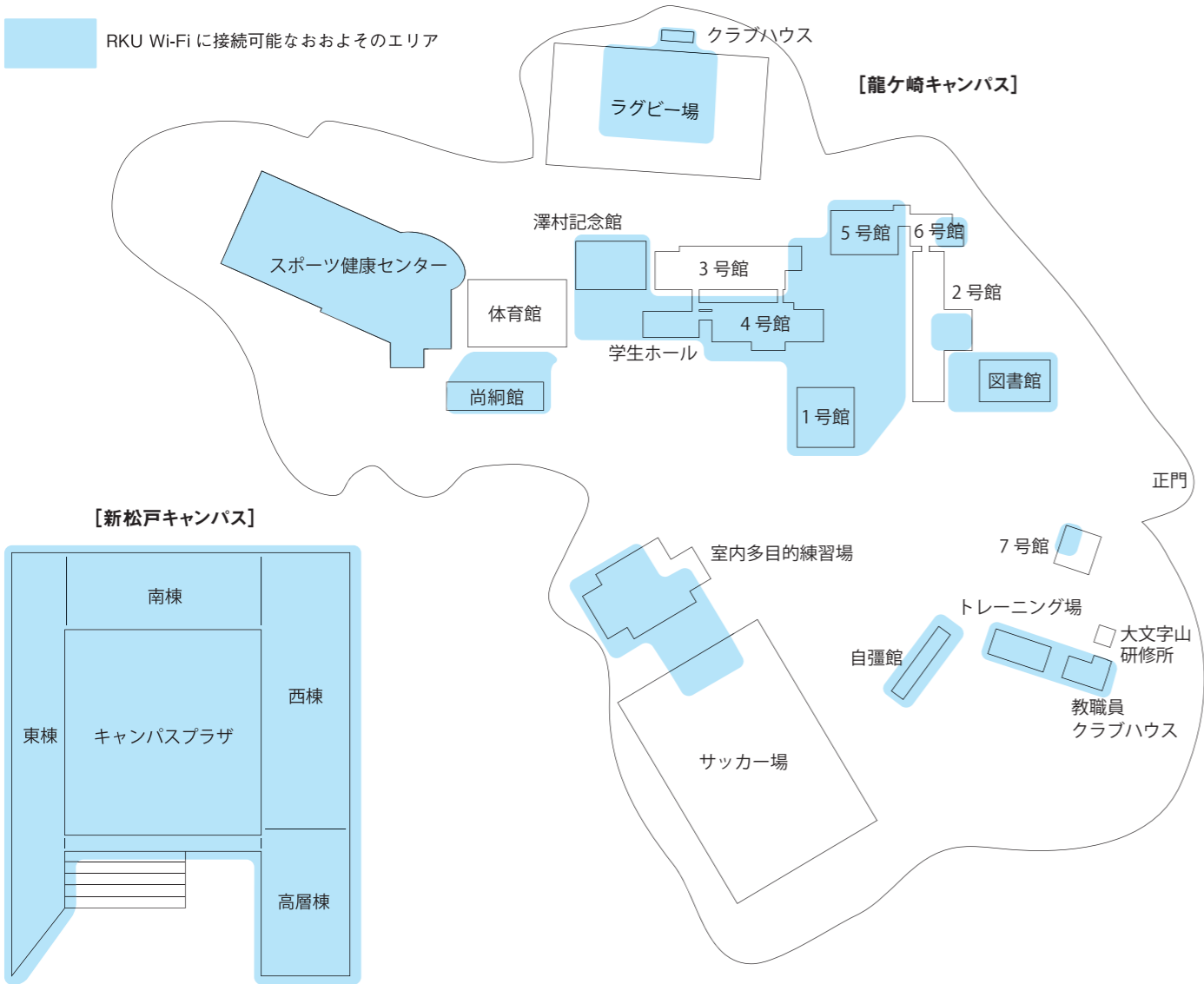
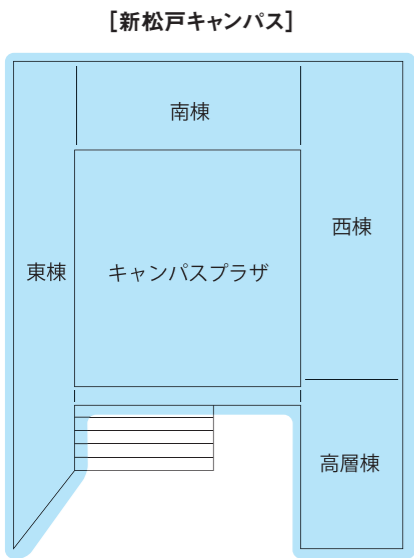
おわりに

今回の本学における大規模なネットワーク環境整備は、今後授業やキャンパスライフでの活用に貢献されるものと期待される。これは海外から来た留学生にとつても、ネットワーク環境が身近にあることは、日本での生活に大変心強いものになるだろう。

しまうのは寂しいし、大学として意図しない活用はあつてはならない。今後、皆さんのアイデアで有効活用されることによって、多くの知識を得る機会へと発展することを望む。

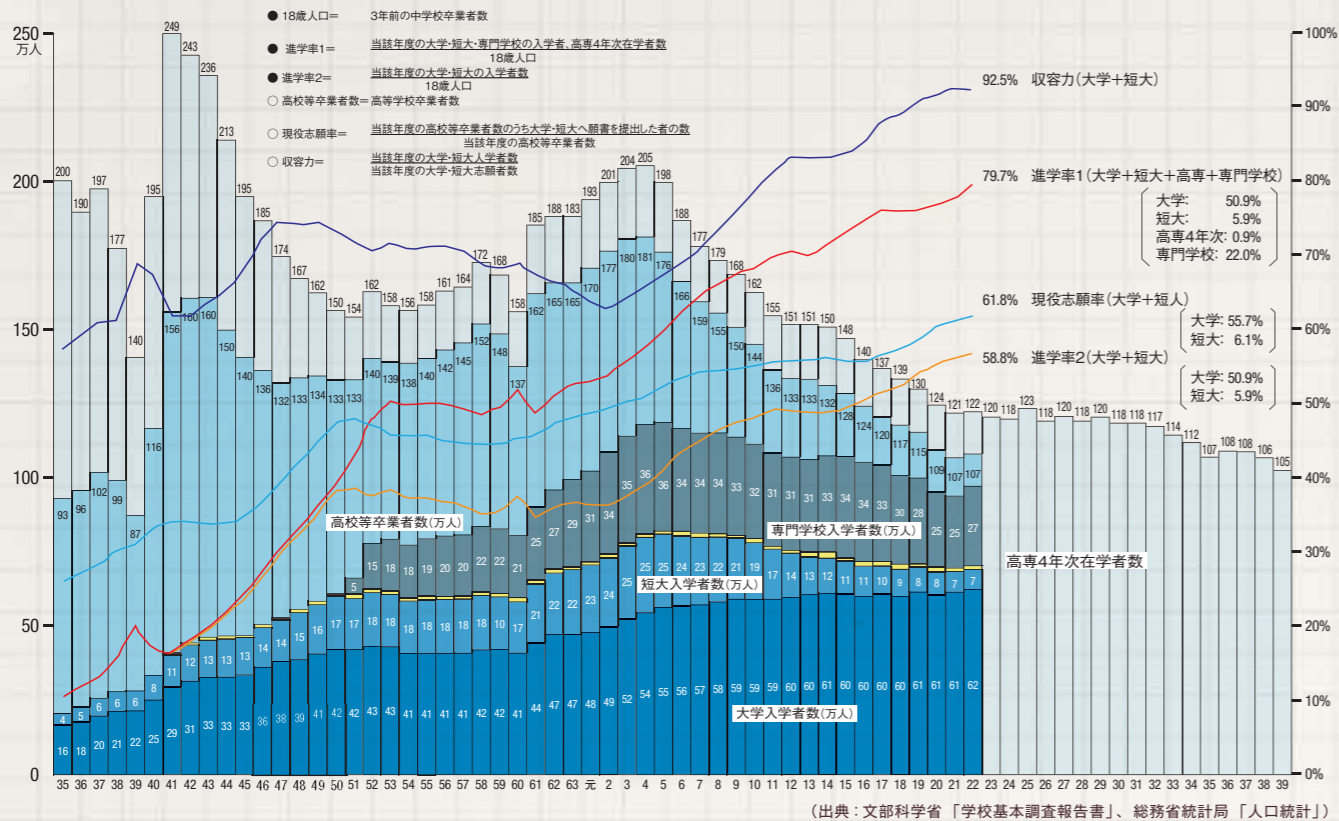


シヨンの手段がメールだけになって



RKU Wi-Fi に接続可能なおおよそのエリア

※5 SSID / 無線LANにおけるアクセスポイントの識別符号。



【学長室だより】 創立五〇周年を 新たな飛躍に

学長 小池田富男



vol. 18

Tomio Koikeda
Gakuchoshitsu Dayori

流通経済大学は二〇一五年に創立五〇周年を迎えることになる。そこで、この秋から新たに「将来構想検討委員会」を立ち上げ、五〇周年を一つの節目に、次の五〇年への飛躍に向けた大学の中・長期の将来計画を策定することになった。これには、教育改革だけでなく、新松戸キャンパスにおける新館の建設や、龍ヶ崎キャンパスにおける新二号館の建設等の計画も含まれる。

これらの中・長期計画の企画立案とその実行こそが、今後の一八歳人口の減少傾向の中で、本学が更なる発展をしていくための唯一の方策になるだろうと位置づけている。そのためにも、本学の置かれている厳しい現状を正確に踏まえた上で、今後の進むべき方向を明確にしておく必要がある。

本学は、昭和四〇年に経済学部経済学科だけの単科大学として開学したが、当初は入学定員が二〇〇名のごく小規模な大学であった。しかし高度経済成長の只中であつて、流通の近代化が課題になっていたこともあり、「流通経済一般に

関する研究と教育を振興して、我が国の飛躍的發展を図る」との趣旨で設立された本学に寄せる社会や産業界の期待には、極めて大きいものがあつた。

こうして、企業系大学としての確固たる地歩を固め、あまたある私立大学の中でも、抜群に高い就職内定率を誇つてきた。今日でこそ「実学教育」を謳わない大学はないほどであるが、本学のように昭和四〇年代から一貫して産業界との連携を校是としてきた大学といふのは、ほとんど稀有と言つて良い。

設立後まもない時期に起きた「日通事件」による危機も、昭和五二年頃には乗り切り、念願の経営的な自立を果たすことができた。その後、一八歳人口が昭和五年の二五四万人から再び増え続け、平成四年には二〇五万人にまで継続して増加したことから、志願者数の増加を背景に、本学でも学部学科の増設による拡大路線がとられることになった。

昭和六三年の社会学部社会学科の開設、平成五年の国際観光学科の増設、平成八年の

流通情報学部流通情報学部の設置、平成三年の法学部企業法学科(現ビジネス法学科)及び自治行政学科の開設、平成一八年にスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の設置と、大学の規模は拡大の一途を辿つたのである。現在では、五学部八学科、大学院五研究科に、合わせて五七九五名の学生が在籍するまでになった。

しかし、我が国の一八歳人口はすでに平成五年から減り始めており、平成一三年には一五〇万人ほどに、平成二〇年には二二〇万人台にまで減少し、現在もほぼこの水準で推移している。こうした一八歳人口の持続的な減少の中で、短大も含めた大学進学率は、若干は上昇したもののほぼ五〇%台で推移し、今後は下がる気配すらある。その結果、志願者数の激減したグループと、むしろ増加したグループとへの、私立大学の二極分化が始まった。

本学はこの間に、学部学科と入学定員を増やしたにもかかわらず、ピーク時の平成四年に二学部だけで九六〇〇名もいた推薦・AOを除く「一般入試」

【学長の活動】 2013年6月~2013年9月

- 6月
 - 4日 中国海南大学留学希望者面接
グアム大学来訪
 - 6日 正則学園高校塩澤理事長を訪問
 - 10日 武蔵大学清水学長を訪問
 - 11日 教員免許状更新講習実施委員会
全学教員会議
 - 12日 常盤大学森学長を訪問
 - 15~16日 私立大学連盟学長会議(京都)
 - 18日 教員免許状更新講習実施委員会
 - 20日 岡部新理事長歓迎会
 - 25日 教員免許状更新講習実施委員会
経済学部教授会出席
高等教育の振興に関する協議会(新松戸)
- 7月
 - 2日 学部長連絡会議
 - 17日 創立50年史編集会議
 - 18日 理事長との打ち合わせ会議
 - 19日 剣道部OB富永氏八段昇段報告に来訪
 - 23日 教員免許状更新講習実施委員会
流通経済大学研究倫理審査委員会
朝日新聞出版「Mook」取材
 - 25日 高等教育の振興に関する協議会(龍ヶ崎)
 - 29日 鹿島学園高校訪問
- 8月
 - 6日 谷川真理客員教授との会食
 - 7日 学内理事・評議員会
 - 9日 教員免許状更新講習判定会議
 - 21日 青島健太客員教授との会食
- 9月
 - 2日 拡大学部長連絡会議
医療法人徳洲会来訪
理事長打ち合わせ
 - 12日 特別奨学生活動報告会
 - 17日 理事会
 - 19日 経済学部教授会出席
 - 24日 全学入試協議会
大学協議会
将来構想検討委員会
 - 28日 平成25年度春学期卒業式

の志願者数が、平成五年から大幅に減少し始め、新松戸キャンパスが開校した平成二六年には四学部計でたった二〇〇名ほどに、平成二〇年には五学部合わせても八四名にまで減少してしまつた。学部やキャンパスの増設が、全くと言って良いほど、志願者数の増加につながらなかつた。規模は拡大したが、マネジメントが伴わなかつたと言われても仕方あるまい。

一方で、必ずしも伝統校ではない東京周辺の中堅校の中にも、志願者数を減らすことなく、減らしてもせいぜい二分の一程度にとどまり、むしろ学部増設で志願者数を増加させていった大学も決して少なくない。

歴史も立地条件もそして規模も、本学とさほどの違いがあるわけではない。本学がピーク時の二〇分の一以下にまで志願者数を減らしたのは対照的であり、何よりも増設された学部学科の構成の違いが大きかつた。

しかし平成二二年以降は、入試センターを中心に入試広報の充実を図り、本学もこの四年で、AOと推薦を除く「一般入試」の志願者数だけで、倍近く増加させることができた。そしてそれ以上に、入学してくる学生の「偏差値」は格段に向上した。本学を志望する学生の層も変わりつつあり、これらの基礎学力の高い優秀な学生に付加価値を付けて社会に

送り出すことで、本学の教育に対する評価も高まるものと期待している。

ただ、本学の更なる飛躍的發展は、今後も「一般入試」等の志願者を大幅に増やす以外には望めない。そこで「将来構想検討委員会」では、教育の「質の転換」を図り、明確な教育目標の設定とその達成度評価ができるシステムの構築など教育内容の改革とともに、既存の五学部体制を徹底して見直し、必要に応じて整理統合も検討しながら、全く新たな新学部、新学科の開設までも視野に入れて、中・長期計画を策定することになっている。

ウエスト バージニア 大学 留学記

山岸直基

(社会学部准教授)

第3回
(全4回)

研究活動も

郷に入りては 郷に従え

今回は、留学の実質的な内容の一部について語ってみようと思います。第1回と第2回をお読みになった方は、「留学って、遊んでいるだけなの?」という印象を受けたかもしれません。もちろんそんな訳はありません。私がウエストバージニア大学に行った一番大きな目的は、ラタール先生の研究室で、ハトを使った動物実験を行うことでした。しかし、国や場所が変わるとルールが変わります。実験を始めるまでには色々なことがありました。

実験エリアに入る 許可を得る

ウエストバージニア大学の心理学の教員は、ライフサイエンス・ビルディングという建物の中にオフィスを持っていて、彼らの実験室もその中にありました。私は大学の客員研究員という肩書きをもらいましたが、それだけでは、実験室エリアには入れませんでした。実験室エリアに通じる扉は常に鍵がかかっていて、許可された人の身分証でのみ鍵を開けることができました。

そして、許可を得るためには、実験の心得を学び、ネット上の試験に合格しなければなりません。ですが、そこで学ばなければならないことは、「ライフサイエンス」の名前とおり、多くは、医学関係の倫理の話で、外科手術をするときの問題や、薬物使用の注意といった話で、私が行う心理学関連の実験とは無縁の内容でした。それでも、大学のルールということでしたので、慣れない医学関連の勉強をして、試験

合格しなければなりません。ですが、そこで学ばなければならないことは、「ライフサイエンス」の名前とおり、多くは、医学関係の倫理の話で、外科手術をするときの問題や、薬物使用の注意といった話で、私が行う心理学関連の実験とは無縁の内容でした。それでも、大学のルールということでしたので、慣れない医学関連の勉強をして、試験

に合格し、無事に実験室エリアに入れるようになりました。許可されたという連絡があっても、二つある扉のうち私の身分証では二つの扉しか開けることができませんでした。運よく(?) 私のオフィスから近いほうの扉だったので、日常的に不都合はなかったのですが、こういったところは、結構アバウトなのだなあと思ったりしました。

ハトがやってきた

ラタール先生の実験室では、主に、ラット、ハト、魚を使って実験を行っていました。私はハトを使わせてもらったわけですが、それについてもこれまでとだいぶ勝手が違いました。



実験室

た。というのも、大学での動物管理はかなり徹底していて、大学の外部から実験動物を持ち込んだ場合、三ヶ月ほど、他の実験動物とは別の部屋に隔離され、その間に、健康問題がないか検査されます。これは、新しい実験動物が外部から病原菌を持ち込むことのないようにするため、なのだそう。そのような事情で、獣医が常駐してさまざまな動物のケアにあたっていたようです。

実験準備にとりかかる

ハトと一概に言ってもいろいろな種があります。たとえば日本では、どこでも見られるカワラバト(いわゆるドバト)のほかにキジバトがいたりします。実験室で使用していたハトは「ホワイトカルノー」という種のハトでした。これは日本の公園などでよく見かけるハトとは違い、真っ



秋のライフサイエンス・ビルディング

白で、体重もおそらく倍以上、かなり大きなハトです。日本で普通に生活していると、このハトを見かけることはまずないでしょう。

このホワイトカルノー四羽を使って実験を行ったのですが、まず、隔離された部屋から実験室フロアの飼育室にハトを移動させました。実験をするためには、まずハトの体重管理をする必要があります。でも、ハトは通常、おとなしく体重計に乗ってはくれません。そこで、ラタール先生の実験室では、ピッチャーを使って体重測定をしていました。ピッチャーというのは飲み屋でビールな

どを大量に入れてテーブルに置いておく容器のことです。空のピッチャーにハトを、頭を下にして入れて、そのまま体重計(キッチン用の計量器)に載せます。ちょうど体がすっぽり収まるサイズでした。残念ながらハトの体重測定の写真は取り忘れてしまいました。ピッチャーからハトの尾だけが出ていてなんともユーモラスでした。

実験がいったん始まったら、週末を含め毎日大学に来て実験をしていました。猛暑の日も、大雨の日も、寒い雪の日もありました。「行動の柔軟性」をテーマに研究をしていたのですが、なんとか帰国直前に実験がすべて終わり、ほっとしました。そんなわけで、私の手元には今でも七月から三月までのハトたちの体重の記録(手書き)があります。日々の実験結果について、ラタール先生や大学院生と議論したことは今でも懐かしい思い出です。



左から
実験箱の中のハト/
ハトの飼育室/
飼育室のハト



左から
体重の記録/
ラタール先生の
実験室入口



[学生生活課]

森 貴樹 職員

初心忘れるべからず

龍ヶ崎は自然が多く、四季の移り変わりをはっきり感じることができます。四季の中では「冬」が好きな私ですが、大学に四季があるとすれば好きなのは「春」です。なぜ、「春」が好きかというと、春は学生の新たな目標に向かう生き生きとした気持ちが伝わってきて、そんな目標に向かう学生の姿を間近に見て、大いに力をもらえるからです。

学生の皆さんは、大学に目標を持って入学をしてきたはずですが、しかし、時の経過とともに、目標を忘れがちになる人は少なくないと思います。「初心忘れるべからず」という言葉があるように、充実した学生生活を送るためには、入学の際に立てた大学での目標を忘れないことが大事ではないでしょうか。

私自身、スポーツを通して目標の大切さを学び、職員となった今、大いに役にたっています。これから職員となったときに立てた目標、「学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう全力でサポートすること」を忘れず、学生のみなさんに接していきたいと思えます。



[スポーツ健康科学部]

武田大輔 講師

トップアスリートの心性：
競技体験と人格形成

世界で戦うトップアスリートにどのような印象を抱きますか？ アスリートは、明るく、元気、爽やかと見られることが多いのですが、実際のところ、競技スポーツに打ち込めば打ち込むほど、明るく元気ではいられなくなります。心も身体も相当に過酷な状況になります。そうならないと強くなれないからです。ところで、人は一番エネルギーを注いでいることで自分を表現します。アスリートは“動き”などの身体で自分を表現します。“その人らしさ”が“動き”に表現されるのです。ですから、その人の光り輝く部分も暗い影の部分も“動き”に表現されるのです。トップアスリートは、身も心も相当過酷な状態で、光と影の双方から成り立つ全体(自己)を創ってゆきます。

大学生アスリートの多くも、命をかけて競技をしていると思います。その体験はその後の人生を歩む基礎となります。自身の身体と深く関わって、競技人生の節目となる学生生活を送ってもらいたいです。臨床スポーツ心理学の立場からそれを見守りたいと思えます。



[法学部]

堀内国宏 教授

裁判員裁判が得意の
弁護士教官です

私は、自称「実務家教官」です。司法試験、司法修習生を経て29年間検察官の仕事をし、その後弁護士に転進して今年で17年目です。

検察官時代は、刑事事件の捜査・公判の現場に熱を上げるとともに、発展途上国の裁判官、検察官、警察官、刑務官、保護観察官らを日本に集めて刑事司法実務の向上を目指して国際研修を行う「国連アジア極東犯罪防止研修所」の次長や所長を計5年半務めました(公用語＝英語)。

弁護士になってからも、やはり刑事事件が多く、学生時代を含めてこの約50年間、刑法・刑事訴訟法の海で泳いでいることになるのです。

そして、今も、裁判員裁判事件を3件抱えており、第1審が裁判員裁判での控訴事件も2件抱えているのです(平成25年8月現在)。

皆さんには、「この刑法・刑事訴訟法の海の様子を、カラーで、立体的に、楽しく伝えたい、そして、こうした美しく、楽しい海で泳ぎたいという人を一人でも多く育てたい」と思って教壇に立っているのです。



[流通情報学部]

井垣竹晴 准教授

知的発見の
喜びを求めて

本年度より流通情報学部で勤務させていただいております。出身は大阪なのですが、なぜか関西弁がほとんどでないで、関西人だとは思われません。しかしふとした言葉づかいから発覚してしまうようです(マクドとか)。

さて私の専門は心理学です。心理学というとカウンセリングなどの臨床研究を思い浮かべるかもしれませんが、私が行ってきたのは基礎研究です。大学院時代は、環境条件の変化に伴う行動抵抗性の規定因(?)という難しそうなことをハトやキンギョ(!)を用いて研究していました。

怪しげな私の専門はさておき、心理学を学んでいつも驚くのは、日常生活の何気ない行動も、実はきちんとした法則や理論に従っているということです。心理学という学問は、学ぶたびに人間についての新しい発見が見出され、何年経っても私の興味を引きつけて止みません。大学では、そのような知的発見の喜びを多くの方と共有できればと思っています。興味があれば授業や研究室を覗いてみてください。



[社会学部]

辻原康夫 教授

交流を基本とした
観光観と社会構築

観光とは、訪れる側、受け入れる側、両者を取りもつ側で成り立ちます。しかし、現在はより細かくとらえないと対応できない時代となっています。就活中の学生で某物流企業から「観光学科がなぜ物流？」との問いに、答えに窮した学生がいました。ゼミでは、新しい観光観は都会と地方、人と人との交流を通じて住みやすい社会をどう築くかを考えてもらっていますが、物流はそうした交流産業の一つであり、観光がなぜ？と問いかける側こそ固定観念から抜け出していないのです。

また、観光学には地理、歴史、文化的理解が欠かせませんが、高校で地理を学ばなかった学生も多く、伝統文化にいたっては知識も実感も乏しいのが現状です。欠けた箇所を補うよう講義をしていますが、足元の地理観や文化を理解していないと、異文化交流や相互交流も掛け声倒れに終わるでしょう。それらを踏まえたくらえ、新しい観光観には地域振興、雇用、環境、情報化など幅広い分野の検証が求められており、社会学における観光の立ち位置もこれではないかと思っています。



[経済学部]

山本道也 教授

健康一ヒトから地球へ

大学に33歳で職を得、あっという間に32年が経ちました。大学教員は「研究と教育」で「パン」を得ます。私は龍ヶ崎市近郊の調査地でネットと野帳片手に1982年から毎年、そこで見られるすべてのチョウウの数を記録して去年で30年になりました。30年経っても種数はほとんど変わりませんが、顔ぶれは随分と変わりました。温暖化と調査地周辺の都市化の影響です。これから退職までの間、パソコンとにらめっこで論文に仕上げます。一方、「教育」では一般教養の一員として、「生命科学」と「生態学」の講義を受け持ち、個人の健康と地球の健康について多くの学生に考える機会を提供しました。現在の生命科学は長寿ばかりでなく、不死さえもが視野に入るほどに発展し、まさに神の領域を侵す勢いです。一方で、今世紀ほど人間の諸活動が地球環境に大きな負荷を与えている時代はないと言えます。私の受講生たちが、いずれ迎える卒業後の社会でも将来持つであろう家庭でも、自分や周辺の人たちの健康はもとより、地球の健康も念頭において日々の生活を続けてくれることを願います。



● 溝田泰夫 / みぞた・やすお

長崎県出身。1972年京都大学法学部卒業後、日本銀行に入行。主として金融機関の経営分析に従事した。平成初めのバブル崩壊時には経営が悪化した銀行の再建、処理問題を担当。検査室長を最後に2003年日銀を退職、茨城銀行に転じた。2010年には同行頭取として関東つくば銀行との合併を実現、(合併後の)筑波銀行会長等も歴任した。2012年流通経済大学客員教授を経て2013年から法学部教授。現在「現代金融」と「会社法」を担当。



馬場啓一の RKU ウォッチング

RKU Watching



【第22回】

法学部
溝田泰夫 教授

Yasuo Mizota × Keiichi Baba

「三十数年、金融関係一筋でした」

流通経済大学の先生方には、大学卒業以来一貫して教育・研究にたずさわってこられた方が多いが、他の分野から転じてこられた方も少なくない。私もその「中途参入組」の一人であるが、この中で溝田教授の経歴はこれまで金融関係一筋というものである。

まず、長崎のご出身ということですが、長崎と関東の風土の違いから。「長崎は『坂の町』と言われる通り、山からすぐ海につながる地形で平野が少なく、人家が海岸線に沿って蟬集(せみじ)しています。一方、関東は平野ばかりです。冬場も天気がよく、住みやすいところですね。茨城では、田んぼの真ん中にところどころ、こんもりとした森があります。多分、鎮守(ちんじゅ)の森か、たき木を採取するためのものだったでしょう。私は、最初これを見たときには不思議に感じました。長崎では樹木は山にしかありません。数少ない平地は住宅や畑の用地として利用しなければならぬので、なるほど地勢は随分違う。人々の気質という面ではどうですか。

「答えにはなりません。おもしろいなと思ったのは、茨城では養子縁組が多いのではないかと、ということですか。お葬式や結婚式に出席した際に、それと分かります。当地は穀倉地帯で、広大な農地を所有している人が多い。そこで、娘が結婚する際に新郎を養子にして、農地の相続権を与えるとともに養親に対する扶養義務を課す、ということになるのでしょうか」

おもしろいですね、初めて聞く話です。さて、日銀というのは一般にはなじみの薄い組織ですが、そこで、どういうお仕事をなさったのですか。

「在職三年のうち、後半のほとんどの期間は、検査等により金融機関の経営状況を把握する仕事に従事しました。ご承知の通り、平成に入ってからバブル崩壊、地価下落に伴い、不動産購入資金を貸出していた多くの銀行の経営が悪化しました。合併等によって乗り切ったものがほとんどですが、破たんしたケースも少なくありません。その頃は私も忙しかったですね」

そういえば、十数年前、金融機関の経営悪化や公的資金による救済の問題がニュースでも盛んに取り上げられましたね。「なぜ銀行だけが税金で救われるのか、マコトにけしからん」と。

「そうでした。そうした中で、当該金融機関から話を聞いた官庁等と相談し、対応策を考えるという重要な仕事の、ほんの一部を担当していたというわけです」

平成二〇年には破たんして国家管理となった日本長期信用銀行(現・新生銀行)に取締役として派遣されました。その際、官邸で故・小渕首相から辞令をいただいたことも思い出です」

地方銀行でのお仕事で印象

に残っていることは。「私が勤務していた茨城銀行と関東つくば銀行との合併問題ですね。合併は、人間で言う結婚ですが、この二〇年の間に両行の間では、結納を取り交わしたり、その後破談になったり、慰謝料をよこせという裁判になったり、いろいろありました。最終的に三年前、よりを戻してめでたく結婚(合併)という運びになりました。この間、私は茨城銀行サイドの交渉担当者だったので、通常の銀行実務はあまりやっていないのです。銀行員だったという大きな顔はできません」

社会に出て活躍するには
フロンティアスピリットが
何よりも大切です。

—森さんは富士宮市のご出身と
いうことですが、本学に進学され
たきっかけはどのようなことだった
のですか？

私が高校二年生の頃に大学進
学を考えた時、いろいろな大学案
内を取り寄せたのですが、色と
りどりの華やかなパンフレットに交
じって、茶色と白の渋いものがあり
まして、そこには坂本龍馬の写
真とともに「フロンティアスピリッ
ト」と書かれていたんですね。そ
れが流通経済大学だったんです。
私はそのパンフレットに大変ひかれ
ました。中高と陸上をやっていた
ので、体育系の学部や、父親の経
営している会社の関係で工業系の
学部への進学を考えていたのです
が、ともかく「面白そうだ」と
強く感じ、進学を決めました。

ともかくがんばりました。恩
師からも「三年間はがむしゃら
にやれ」と言われていましたから。
入社して三年間は、目の前のこと
に全力投球しました。大変な仕
事でも、自分から率先してやり
ました。不思議なことなんです
が、三年間持続していると、自然
とそれが自分の仕事のスタイルに
なってしまうんですよ。そしてそ
れが会社の中で評価につながり
ます。お蔭で、最年少で係長に
なれました。その時はとてもうれ
しかったですね。

—素晴らしい！順風満帆だっ
たんですね。

いやいやとんでもない。もち
ろん、挫折もあり、苦しい時も
あり、もう仕事は嫌だな、なん
て思うこともありました。です
が、途中で志を変えずにやって
こられたことが、よかったです
ね。流経大で得た「フロンティア
スピリット」で、会社の中で自分
の道を切り開いていこうというや
る気で取り組みました。ですから、
ISO9001（品質）やI
SO14001（環境）の審査員
の資格や、資材管理士の資格な
ど、勉強強して取得したんです。
私にとって大学までの勉強は、ど

OB/OG訪問 立川が 聞く。

自動車関連の部品を製造する静
岡県富士宮市の日本プラスト株
式会社で最年少の執行役員を務
める森昭彦さん。在学中に得た
「フロンティアスピリット」で道を
切り開いてきたそうです。

第13期生
(1981年3月 経済学部卒業)

森 昭彦 さん

Akihiko Mori

〈取材〉
立川和美 (社会学部准教授)



—大学ではラグビー部に所属
されたということですが。

ええ、実は私は小学校から空
手をやっておりまして、入学式
時に空手部からの勧誘があったん
です。しかし新しいことをやって
みたいと考えていて、ラグビー部
に入りました。すでにラグビー部
はかなり強くて、経験者が多かつ
たんですね。ですから初心者の方
には大変苦しかったのですが、必
死に打ち込み一年生の後半の試
合あたりからレギュラーとして定
着して出場できるようになりました。
当時とはともかく練習ある
のみでした。

—それに寮長もなさっていらっ
しゃったのですよね。

はい。当時、総務部の平山さん
(現・事務局長)や学生部の内田

さん(現・付属柏高校事務長)、そ
れから大学の先生方と寮の運営
について真剣に議論をしましたね。
本当にありがたいことに、私たち
学生に対しても、本音で語りあっ
てくださったんですよ。つくばね祭
に寮として参加したこともいい思
い出ですね。当時はともかくコン
パクトで仲間意識の強い大学でし
た。学生も先生方も職員の方も、
皆がこれから伸びていこうとい
う活気に満ちていましたね。大学で
の仲間は、四国から秋田まで散ら
ばってしまいましたが、今でもまめ
に連絡を取り合っています。

佐伯学園長は、当時は学長で
いらっしゃったのですが、卒業後
一〇年ぶりにお会いした時も「森
くん。君は寮のボスでがんばって
たね」とお声をかけてくださった
のには感激しました。

—大学卒業後は、現在の日本
プラストに入社されたんですね。

はい。地元に戻って仕事をしよ
うと思いついて、できれば大手
の企業をと考えました。狭き門
でしたが、チャレンジ精神で臨み、
流経大からは初めての入社とな
りました。

—入社当時は、いろいろと大
変だったのではないですか？

—それでは、学生に一言お願い
できますか。
まず、学生諸君に、「君たちは
フロンティアスピリットを持って
いるか」ということを聞きたいです。
社会に出て活躍するためには、こ
の精神は何よりも大切ですからね。
それから大学時代には、何か
一つ打ち込めることを見つけ、そ
れに力を注いでほしいと思います。
「これに関してなら私は誰にも負
けない」ということを持つてくだ
さい。一つのことを打ち込むと、コ
ミュニケーション能力が磨かれま
すし、挫折も経験し、何かを運営
する難しさも知るようになります。
そういう人は、オープンマインド
で、やる気にあふれているものなん
ですね。私が採用したいと思うの
は、「謙虚な負けず嫌い」という
人材です。社会に出たらプロなの
ですから、どんなことでも言い訳
せずに取り組むことができなくて
はいけません。そういう謙虚な姿
勢を持ちつつ、誰にも負けないと
いう気持ちで仕事ができる人です
ね。そのためには、やはり何か一つ
「これ」というものがなくては
いけないのではないかと思います。
—どうもありがとうございます。

うしても単位を取ろうという受
け身のものだったのですが、社会
に出てからは、自分の目標を明
確に設定して必要な勉強を積極
的に行っています。たとえば、今
は週五日、スカイプでマニラ大学
の方々と三〇分間英語でのディス
カッションを行っていますし、二〇
年前からメンタルマネージメントに
ついて勉強しています。それを活
かして、常に人生、仕事、家族
などについて自分の長期的目標を
設定し、自己管理をしています。
—現在は、最年少で執行役員
をお務めいらっしゃいますが、
その長期的な目標とはどんなこ
とですか。
そうですね。まずは社業に貢
献したいです。社員と取引先を
幸せにすること。それから自分
の持っているスキルを若い人たちに
受け継いでいってもらえるように
することですね。そうした大き
な目標のために、たとえば毎日
五時に起床し六時半には出社し
て、始業までの二時間は、前日の
仕事の反省とその日の仕事のスケ
ジュールを確認する、また帰宅後
は毎日トレーニングをして健康を
管理するなど、毎日の積み重ね
を怠らないようにしています。



Wonderful
Life Stories
with
Dr. Kazumi
Tachikawa



森さんは、お休みの日はジョギング
やサイクリングなど、体を動かすこ
とを心がけていらっしゃるという
ことです。「ジョギングは、卒業以来
ずっとやってます。結構しつこいん
ですかね(笑)」。また今年の夏休みは、
奥様と信州へ美術館巡りの旅に出ら
れたそうです。絵画やガラス工芸、
陶器などもお好きで、「心の栄養にな
るんですよ」とのことでした。

【校友会】

茨城校友会主催 卓球大会開催

9月1日、茨城校友会主催の卓球大会が開催され、県内各地から約500名もの方に参加いただきました。これは、地域交流の一環として行われ、今後も開催を予定しています。



【教職員野球部】

第50回 日本私立大学連盟教職員野球大会 **優勝**

本学教職員野球部は、8月7日から9日に開催された2013年度 第50回 日本私立大学連盟教職員野球大会において、2連覇を達成しました。今大会でも2人の学生トレーナーが帯同し、選手たちのサポートをしてくれました。



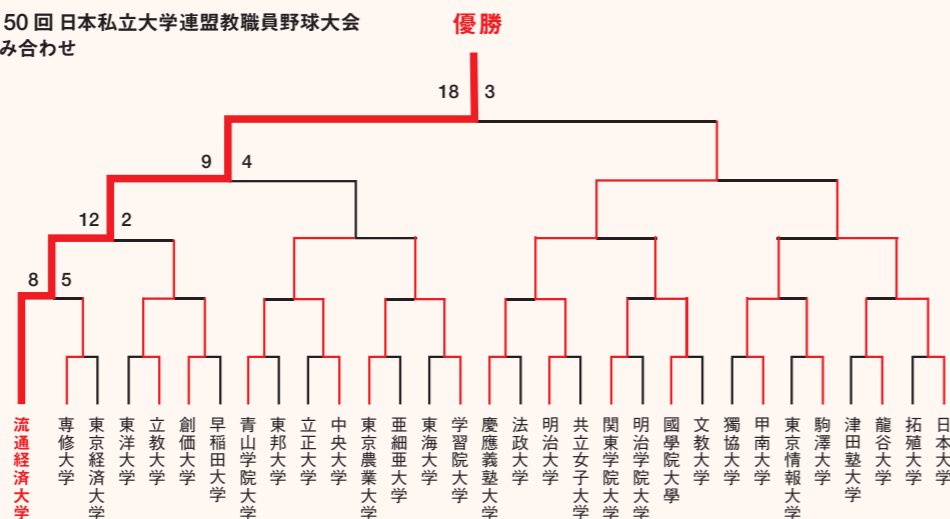
〈学生トレーナー〉

内藤大貴さん (スポーツ健康科学部2年)

丸山和也さん (スポーツ健康科学部1年)

【大会結果・表彰選手】
優勝——流通経済大学 準優勝——明治大学 3位——中央大学 4位——日本大学
MVP——藤平正義 (流通経済大学)

第50回 日本私立大学連盟教職員野球大会 組み合わせ



留学生紹介

vol.23

大学院で福祉関係の論文制作に励んでいる台湾出身の李さん。現在の研究内容について生き生きと語ってくれました。

取材:沖野雅広(企画広報室)



「縁が続いて、現在の私があります」

大学院社会学研究科博士後期課程2年 李婷婷 (リテイティン)さん Lee Ting-Ting

——来日した経緯を教えてくださいませんか。

私は、母国の台湾で医療系の学校を卒業し、看護師として約三年間働いていました。働くなかで芽生えた悩みが解決できなかつたり、夜勤の連続で友人たちとの付き合いも減り、さびしさを感じ、現状を打開できる方法がないか考えるようになりました。そんな時に、母から日本で学ぶことを勧められました。母も看護師として働いていて、研修で日本の現場を何度も視察していました。福祉の分野について、台湾とは違う視点で現場を勉強できると思い、決意しました。

——日本で福祉の分野を学ぶのに流経大を選んだ理由は?

アルバイト先のお客様で流経大OBがいて、話を聞く機会がありました。社会福祉の勉強ができることや留学生のための学費補助制度が充実していることなどを親身になってアドバイスしてくれました。入学後も良き相談相手になつてくれて、今では私の夫です。縁を感じています(笑)。

——研究テーマは何でしょうか?

「介護施設の中の身体拘束」です。日本の施設に現場実習で行った際、台湾との違いに驚いたことが、このテーマに決めた理由です。

——身体拘束=無理やり人を抑えつづけること、と受け取られそうですが、実際は違います。例えば腕が痒い時、人は腕を掻きますよね。認知症の患者の中には、その行為を血が出るまで止めない人がいます。血が出ても掻き続ける人も。そんな自分自身を無意識に傷つけてしまう人たちの安全確保をするためにはどんな方法があるか研究しています。

——具体的には、どんな違いが? 台湾では、看護師の人手不足

などが理由としてあげられますが、身体拘束を患者さんに施す際は現場での判断に委ねられます。国の慣習として実際によく行われている介護の形としてマニアル化もされています。

日本の場合には違い、法律で認めていないという理由もありますが、身体の動きを制限することは、もともと持ち合わせている身体能力の機能低下につながるかと考えられています。そのため、前述のような場合は、どうしたらその行動を止められるか、その手段を模索し実践しています。人にそった優しい介護体制だと感じました。

——将来については、どう考えていますか?

社会学部で自分の興味のある分野を突き詰めて勉強した現在だからこそ、台湾の良さ・日本の良さを発信できる場所で働きたいと考えています。

——来日した経緯を教えてくださいませんか。

私は、母国の台湾で医療系の学校を卒業し、看護師として約三年間働いていました。働くなかで芽生えた悩みが解決できなかつたり、夜勤の連続で友人たちとの付き合いも減り、さびしさを感じ、現状を打開できる方法がないか考えるようになりました。そんな時に、母から日本で学ぶことを勧められました。母も看護師として働いていて、研修で日本の現場を何度も視察していました。福祉の分野について、台湾とは違う視点で現場を勉強できると思い、決意しました。

RKU Schedule

2013年10月～2014年3月

全学

11月
 1日 ●創立記念日
 2日～3日 ●つくばね祭(龍ヶ崎キャンパス)
 23日 ●通常授業日

12月
 23日 ●通常授業日
 24日～1月4日 ●冬期休業

1月
 6日 ●秋学期授業開始
 21日～2月3日 ●秋学期定期試験

2月
 4日～3月31日 ●春季休業

就職関連〈就職ガイダンス〉

10月
 ●エントリーシート対策
 ●4年生内定者による就職活動体験発表会

11月
 ●企業が求める人材像
 ●就活マナー講座
 ●OB・OGからのアドバイス

12月
 ●女子学生ガイダンス
 ●企業が求める人材像
 ●グループディスカッション講座

1月
 ●学内・合同企業説明会

【編集後記】

●祝2020年夏季オリンピック開催地に「東京」決定!

下馬評ではマドリード優勢とのことでしたのでヒヤヒヤしながら見守っておりましたが、何とマドリードは一回目の投票で最下位となり、東京とイスタンブールとの決選投票! この時点で勝ったと思います。

マドリードは財政不安、イスタンブールは安全面で評価を落としたようです。日本は苦手と言われていたロビー活動も好結果をもたらし、最終プレゼンテーションも好印象を与えたようです。やはり「おもてなし」の心が効果を発揮したのでしょうか。

本学もスポーツ健康科学部を中心にオリンピック開催及び運営に大きく関わっているメンバーも多いことから、2020年までの7年間はこれまで以上の活発な活動が続くと思います。本学の龍ヶ崎キャンパスは成田空港からも近く、サッカー、ラグビー等の施設も充実しているので側面から何らかの形でオリンピック開催に貢献できるかもしれません。

●さて、本誌「RKU Today」も今回の発行で25号となります。年4回発行の季刊ですから、丸6年経過し、いよいよ7年目突入となりました。佐々木悟郎氏の表紙イラストも読者に好評のようです。

編集委員一同これまで以上に流通経済大学の魅力を皆様にお伝えするべく精進して参る所存ですので、これまで以上の応援、よろしくお願いたします。

(編集子)

海浜実習

3

スポーツ健康科学部1年生全員が参加する海浜実習が6月28日～7月4日に沖縄県渡嘉敷島にて開催されました。

学生たちは2班に別れて羽田空港を出発、自然の中で「生命の尊厳」や「人間性」を学び考えるという体験をし、さまざまなものを得て帰ってきました。



学内合同企業説明会

4

9月27日(金)の午後、新松戸キャンパス学生ラウンジにおいて、4年生を対象に学内企業説明会を開催しました。参加企業は34社、学生の参加人数は91人でした。学内の説明会に参加する企業は「この大学の学生が欲しい」という明確な意志を持っているため、学外の企業説明会と比べて採用までたどり着く可能性が高くなっており、学生にとって効率のよい就職活動ができます。



総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝

1

8月17日、大阪長居スタジアムで行われた第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント決勝で、本学サッカー部が明治大学を3-2で下し、6年ぶり2度目の優勝を決めました。



2013年度 第1回読書コメント大賞

2

本学図書館が毎年開催している「読書コメント大賞」は、読書をして感じたことをポップ広告風にまとめた作品を学生から募集し、優秀な作品を選考する企画です。

7月に行われた2013年度の第1回読書コメント大賞には169点の応募があり、下記の17点が大賞に選ばれました。

■2013年度 第1回コメント大賞

工藤泰明 (ビジネス法学科2年)	「実践日本人の英語」マーク・ピーターセン 著(岩波書店)
森本健斗 (経営学科2年)	「偽りの明治維新：会津戊辰戦争の真実」星亮一 著(大和書房)
木村紳哉 (経営学科2年)	「藁の橋」木内一裕 著(講談社)
大槻 萌 (経済学科1年)	「音の風景」A・コルバン 著・小倉孝誠 訳(藤原書店)
梅原 翔 (経済学科4年)	「ハブとビールのイギリス」飯田操 著(平凡社)
永島克人 (経済学科4年)	「バッテリー」あざのあつこ 著(角川書店 他)
植田将平 (経済学科4年)	「満天の星と青い空」西森博之 著(小学館)
高安美月 (経済学科4年)	「すべては宇宙の采配」木村秋則 著(東邦出版)
Xu Mengmeng (国際観光学科3年)	「なぜ私はこの仕事を選んだのか」岩波書店編集部 編(岩波書店)
平野千春 (国際観光学科1年)	「最後のロッカールーム：監督から選手たちへ贈るラスト・メッセージ：全国高校サッカー選手権大会敗戦直後の感動シーン」(日本テレビ放送網)
相川知未 (国際観光学科1年)	「悪童日記」アコタ・クリストフ 著・堀茂樹 訳(早川書房)
平賀勝也 (自治行政学科1年)	「深夜特急」沢木耕太郎 著(新潮社)
成沢虹貴 (自治行政学科1年)	「なぜ僕は「悪魔」と呼ばれた少年を助けようとしたのか：「光市母子殺害事件」弁護団を解任された「泣き虫弁護士」の闘争手記」今枝仁 著(扶桑社)
飯塚愛美 (社会学科2年)	「家事の値段」とは何か：アンパイドワークを測る」久場嬉子・竹信三恵子 著(岩波書店)
石塚凜平 (社会学科2年)	「善人ほど悪い奴はいない：ニーチェの人間学」中島義道 著(角川書店)
鈴木麻菜美 (社会学科1年)	「光」三浦しをん 著(集英社)
福田胡桃 (社会学科1年)	「ファミヤ雑貨店の奇蹟」東野圭吾 著(角川書店)

第48回つくばね祭 (龍ヶ崎キャンパス学園祭) 開催のお知らせ

11月2日(土)・3日(日)

各種模擬店や展示、お笑いライブ、音楽ライブなど、学生たちが張り切って企画・準備中です。ぜひご来場ください。

《お問い合わせ》つくばね祭実行委員会
 TEL:0297-64-0949 (受付時間12:00~16:00)



※写真は昨年の様子。

RKU OPEN CAMPUS 2013

流通経済大学2013年度オープンキャンパスは10月26日(新松戸キャンパス)をもって終了となりました。

学生アドバイザーを中心としたスタッフによる説明や教員による模擬授業に加え、今年度は新たに女子学生スタッフとの対話で本学を知っていただく、女子限定の「ガールズトークカフェ」を企画し、大好評となりました。今後も入試相談会やキャンパス見学など随時受け付けておりますので、お気軽に入試センターまでお問合せください。



Girls' Talk Café



入試日程 (11月~12月・全学部)

入試種別	期	出願期間	試験日
指定校推薦		10/21 ^月 ~ 11/5 ^火	11/9 ^土
自己推薦 (一般・特別)	I	10/21 ^月 ~ 11/5 ^火	11/9 ^土
	II	11/7 ^木 ~ 12/3 ^火	12/7 ^土
AO (一般・特別・課外活動)	III	10/28 ^日 ~ 11/13 ^水	11/16 ^土
	IV	11/18 ^日 ~ 12/10 ^火	12/14 ^土

入試相談会 両キャンパスで開催中

[平日] 9:00~17:00 [土曜日] 10:00~14:00

※開催日はホームページでご確認ください。

[お問い合わせ]

流通経済大学入試センター

☎ 0120-297-141

✉ ees@rku.ac.jp

🌐 <http://www.rku.ac.jp/go>

📱 <http://www.rku.ac.jp/go/m>



RKU RYUTSU KEIZAI
UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.25** 2013年10月発行
編集・発行 / 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室
茨城県龍ケ崎市平畑120 〒301-8555 TEL:0297-64-0001(代表)

